

111 の活火山の調査観測結果に関する資料 （中国地方）

三 瓶 山

(2025 年 7 月～2026 年 6 月)

火山性地震は少なく、火山活動は静穏に経過している。

・噴気等の状況

山頂部の室の内火口には鳥地獄と呼ばれる噴気孔があるが、噴気異常等に関する通報はない。

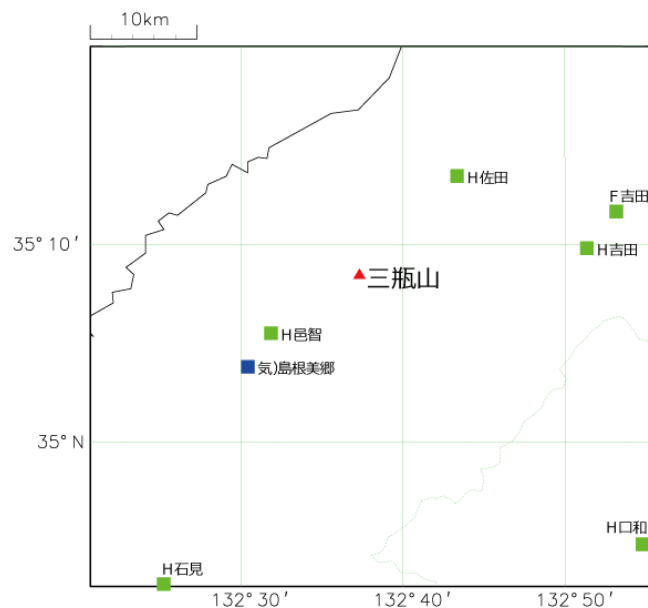


図 1 三瓶山 周辺の地震観測点

■(H) : 防災科研観測点 ■(Q) : 気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

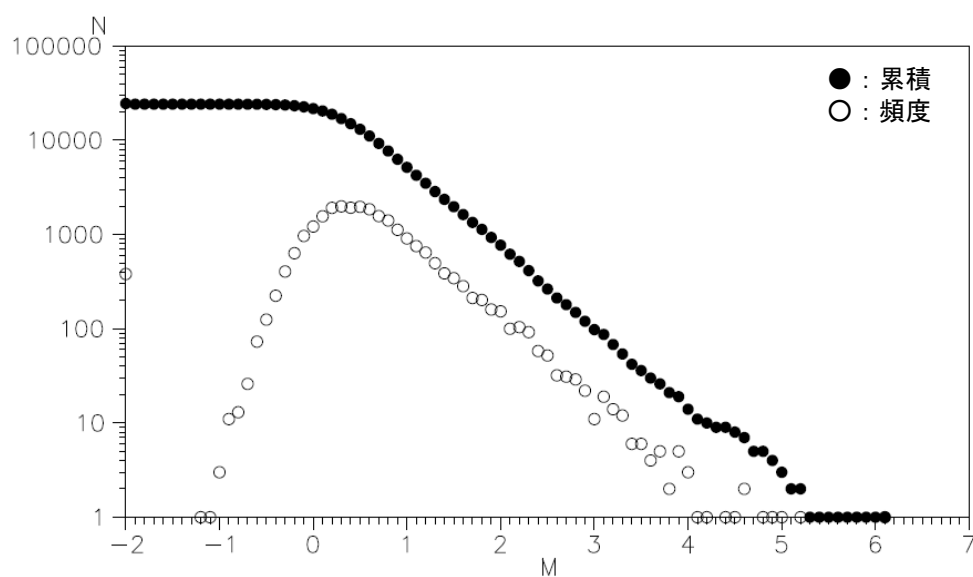


図 2 三瓶山 広域地震観測網による震源のマグニチュード別度数分布図

(図 3-①震央分布図の範囲内)

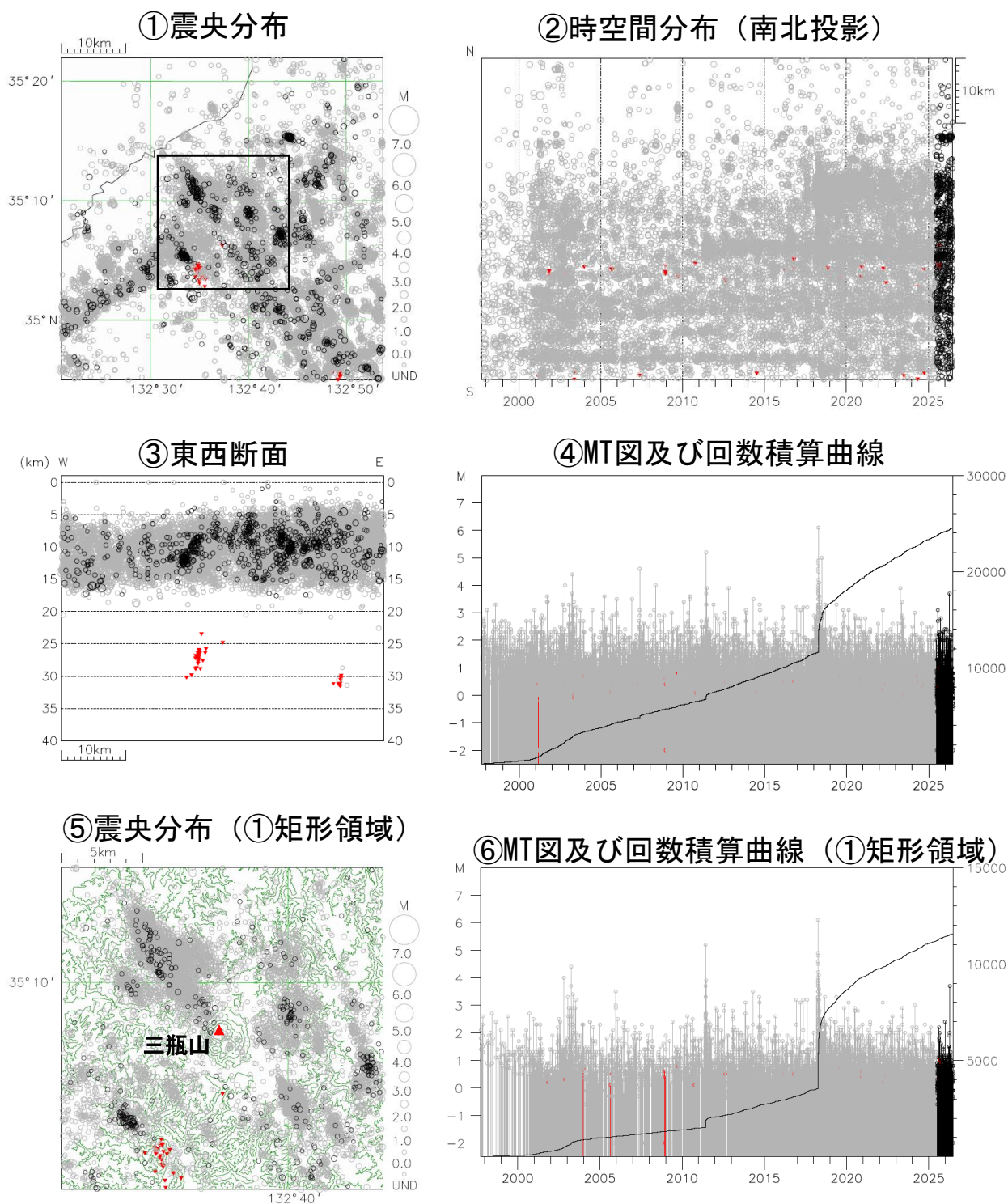


図3 三瓶山 広域地震観測網による周辺の地震活動（1997年10月1日～2026年6月30日）

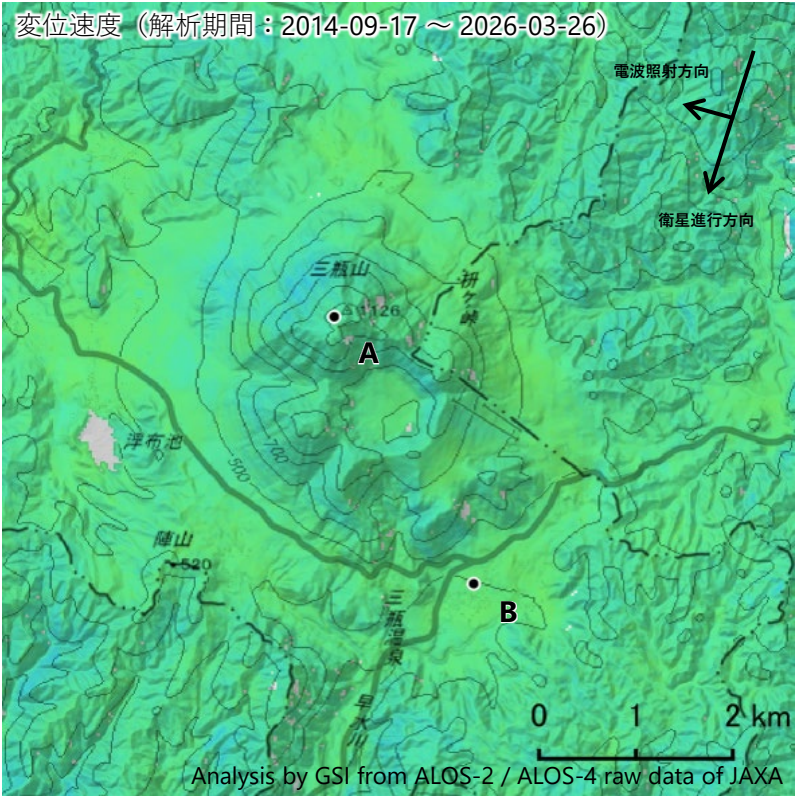
○：1997年10月1日～2025年6月30日、○：2025年7月1日～2026年6月30日

▼は低周波地震を示す。

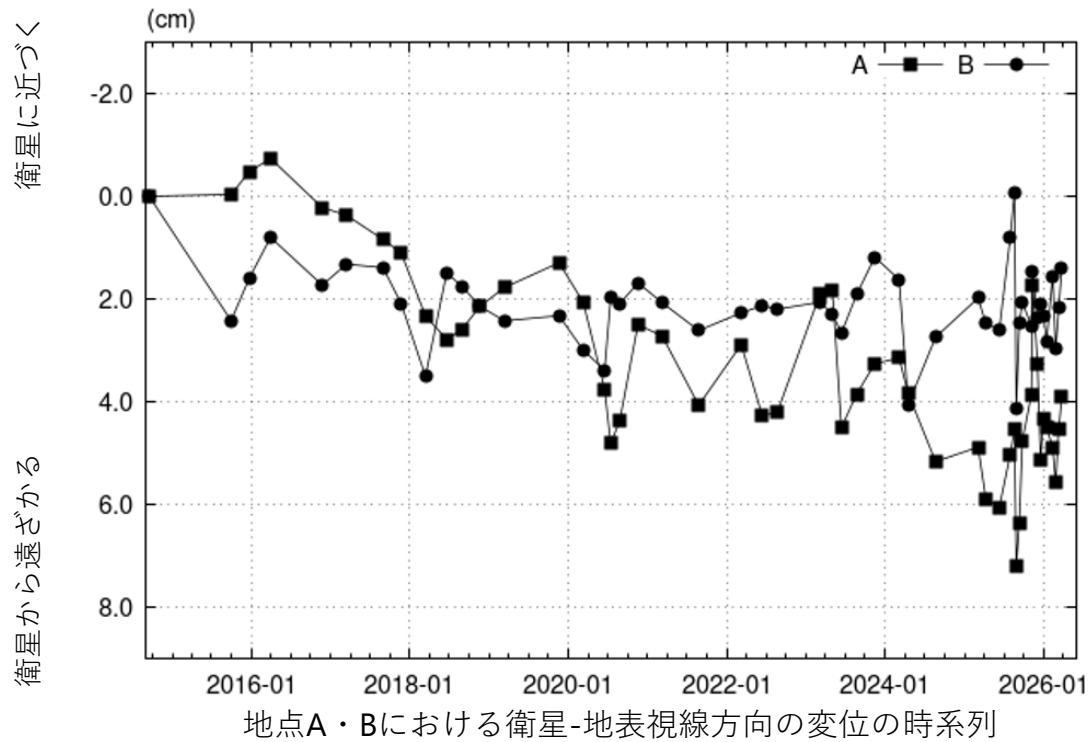
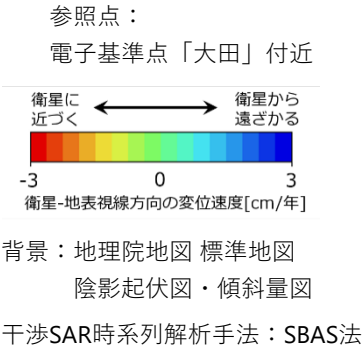
・周辺では2018年以降、それ以前と比べて地震活動がやや活発となっているが、山体付近に発生する地震は少ない。

三瓶山の干渉SAR時系列解析結果（だいち2号／4号 南行）

ノイズレベルを超える変動は見られません。



衛星名	だいち2号 だいち4号
観測期間	2014-09-17 ～ 2026-03-26
入射角	39.6°
データ数	50
干渉ペア数	250
空間分解能	約 30 m



本解析で使用したデータは、JAXAとの協定及び火山活動衛星解析グループの活動を通して得られたものです。
対流圏遅延補正には、気象庁数値予報格子点データを使用しています。

阿武火山群

(2025年7月～2026年6月)

広域地震観測網によると、山口県北部では、2025年2月から微小地震活動がみられており、深さ25kmから30km付近でまとまって発生している。また、2025年半ば頃から、深さ5km程度から20km程度でまとまった微小地震活動が継続している。

阿武火山群周辺の浅いところでの地震活動においては、流体が関与するような波形の特徴は示していない。2025年10月に実施した現地調査では噴煙など表面現象の異常は認められず、また異常に関する通報もない。

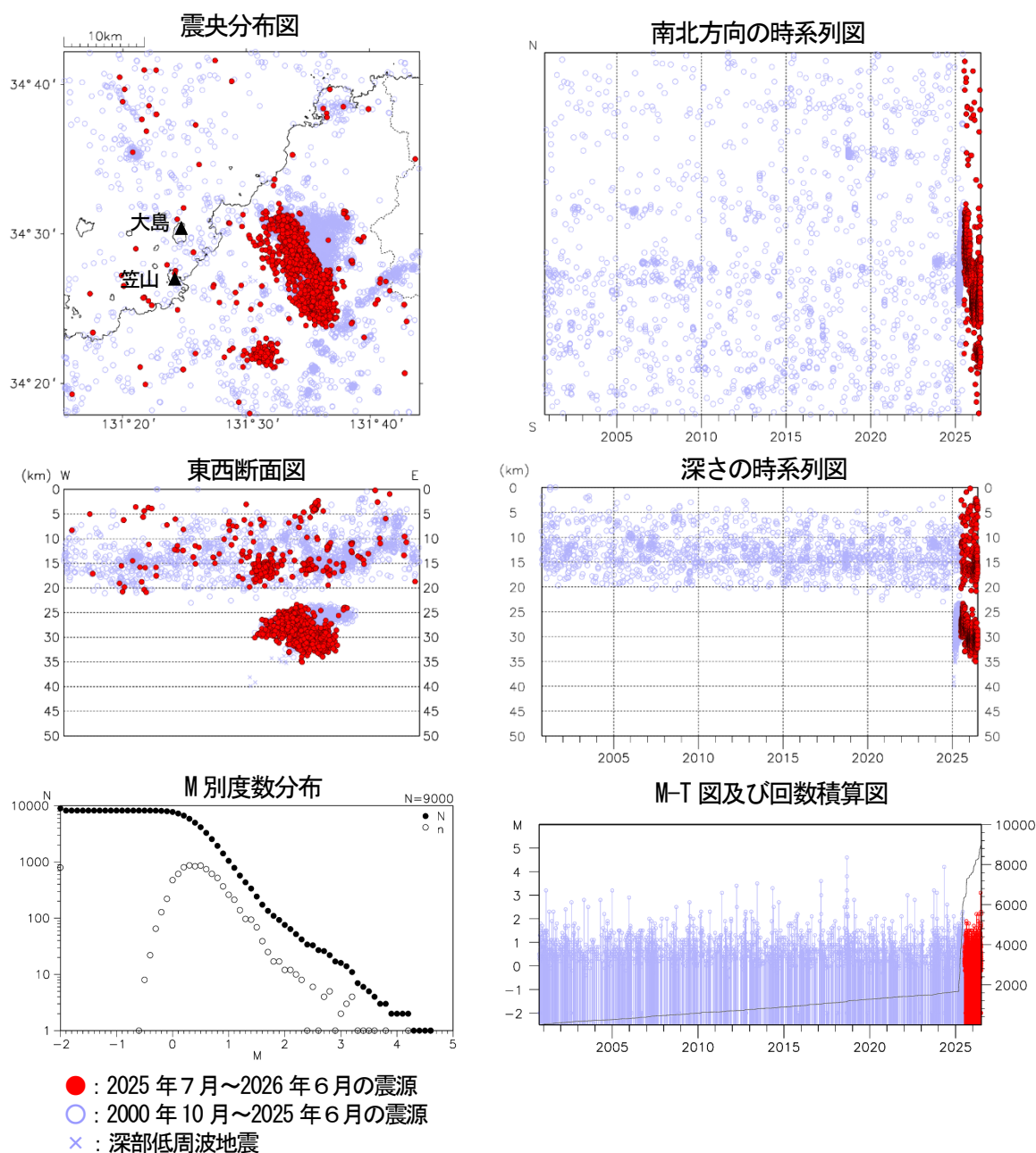


図 1 (前ページ) 阿武火山群 広域地震観測網による地震活動経過図 (2000 年 10 月～2026 年 6 月)

＜2025 年 7 月～2026 年 6 月の状況＞

- ・広域地震観測網によると、山口県北部では、2025 年 2 月から微小地震活動がみられており、深さ 25km から 30km 付近でまとまって発生している。
- ・この地震活動域の周辺では、2025 年半ば頃から、深さ 5km 程度から 20km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。

広域地震観測網による震源の検知能力等については、資料末尾の「気象庁資料に関する補足事項」の 2. 広域地震観測網による震源の利用についてを参照。

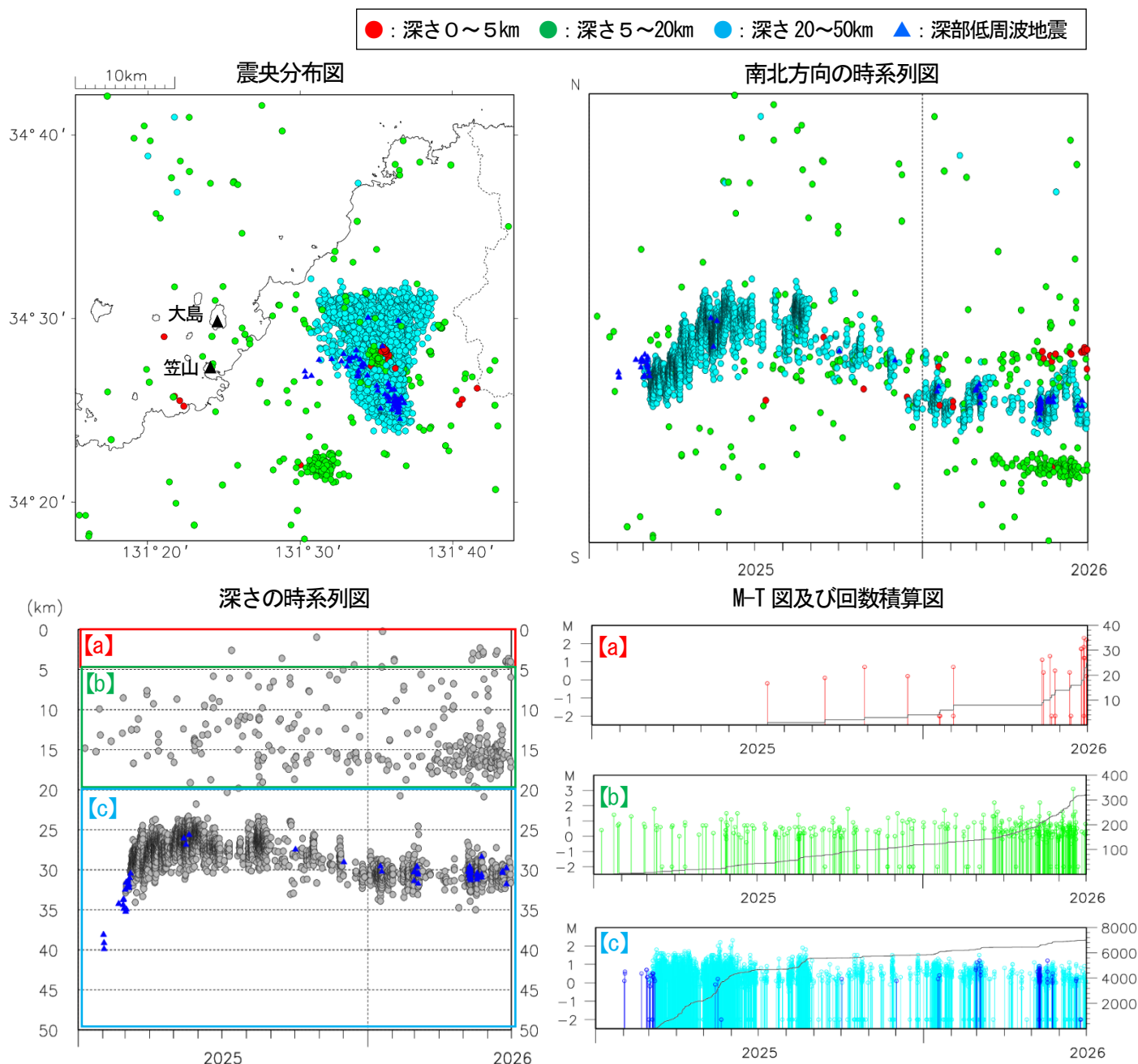


図 2 阿武火山群 広域地震観測網による地震活動経過図 (2025 年 1 月～2026 年 6 月)

＜2025 年 7 月～2026 年 6 月の状況＞

- ・広域地震観測網によると、山口県北部では、2025 年 2 月から微小地震活動がみられており、深さ 25km から 30km 付近でまとまって発生している。
- ・この地震活動域の周辺では、2025 年半ば頃から、深さ 5km 程度から 20km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。

広域地震観測網による震源の検知能力等については、資料末尾の「気象庁資料に関する補足事項」の 2. 広域地震観測網による震源の利用についてを参照。

阿武火山群

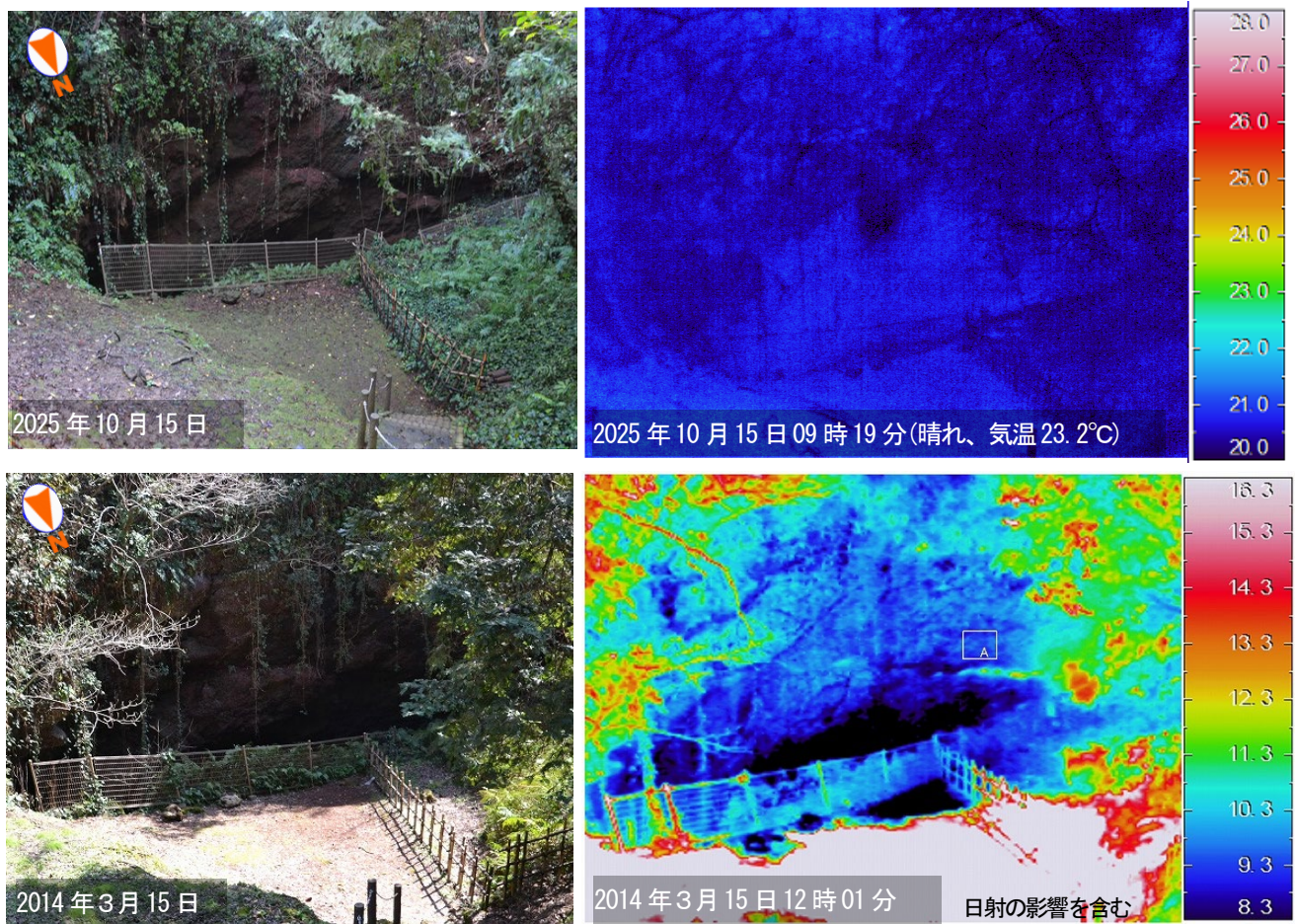


図 3-1 阿武火山群 笠山火口内の状況

2025 年 10 月に実施した現地調査では、笠山火口内では噴気や地熱域は認められなかった。



図 3-2 阿武火山群 笠山展望台からの萩諸島の状況

噴気等の特段の異常は認められなかった。



図 3-3 阿武火山群 鍋山付近の状況 (2025 年 10 月 15 日)

噴気等の特段の異常は認められなかった。



図 3-4 阿武火山群 平蕨台付近の状況 (2025 年 10 月 15 日)

噴気等の特段の異常は認められなかった。



図 3-5 阿武火山群 観測位置及び撮影方向

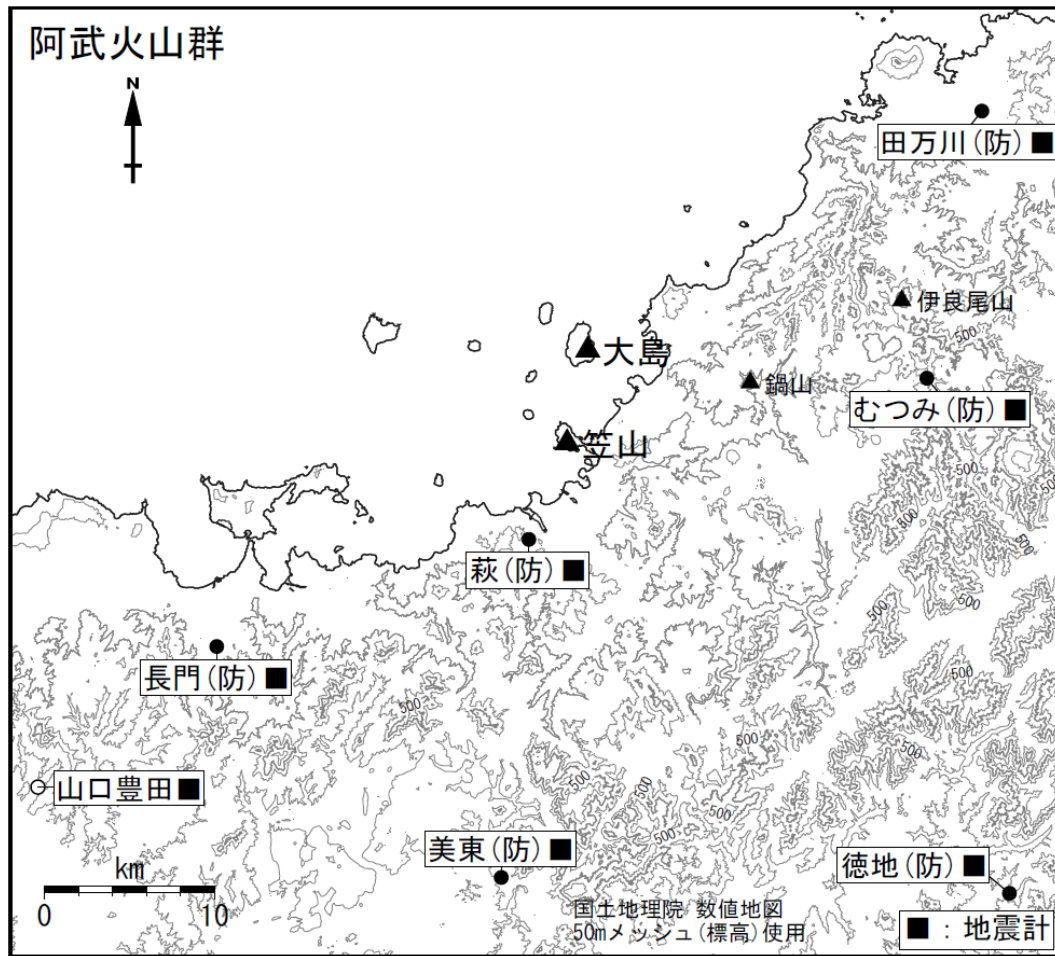
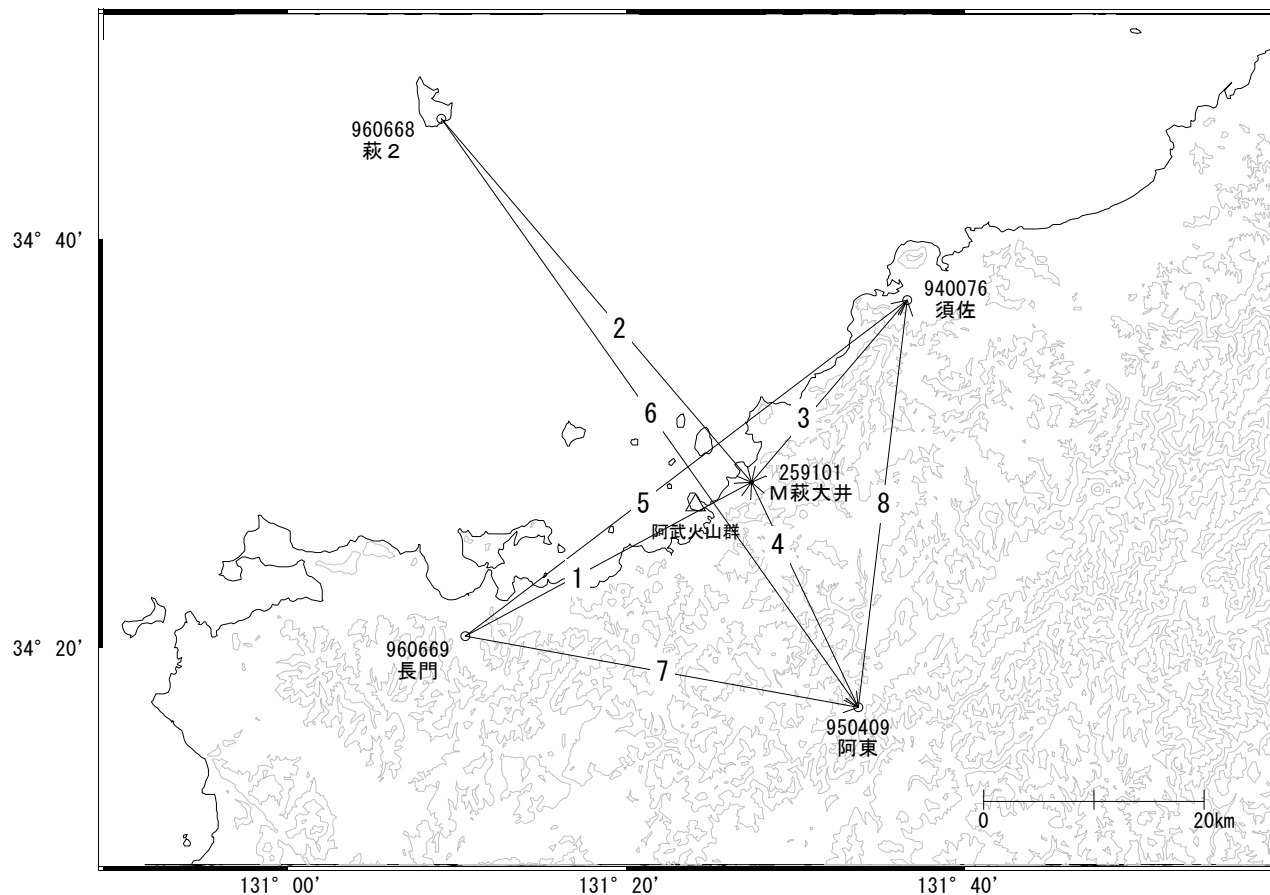


図4 阿武火山群 周辺の地震観測点

阿武火山群

「阿東」－「須佐」等の基線で、2025年2月頃から伸びが継続しています。

阿武火山群周辺 GNSS連続観測基線図



阿武火山群周辺の各観測局情報

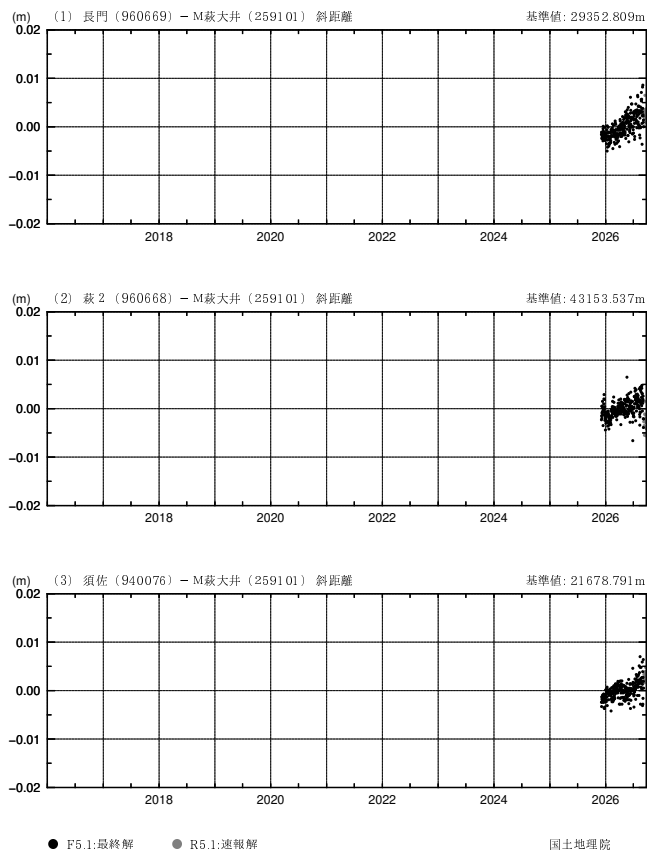
点番号	点名	日付	保守内容
940076	須佐	2025-12-11	受信機交換
259101	M萩大井	2025-12-02	設置

※阿武火山群周辺の各観測局情報には、2025年7月1日以降の電子基準点の保守情報を掲載しています。

※[R5.1解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

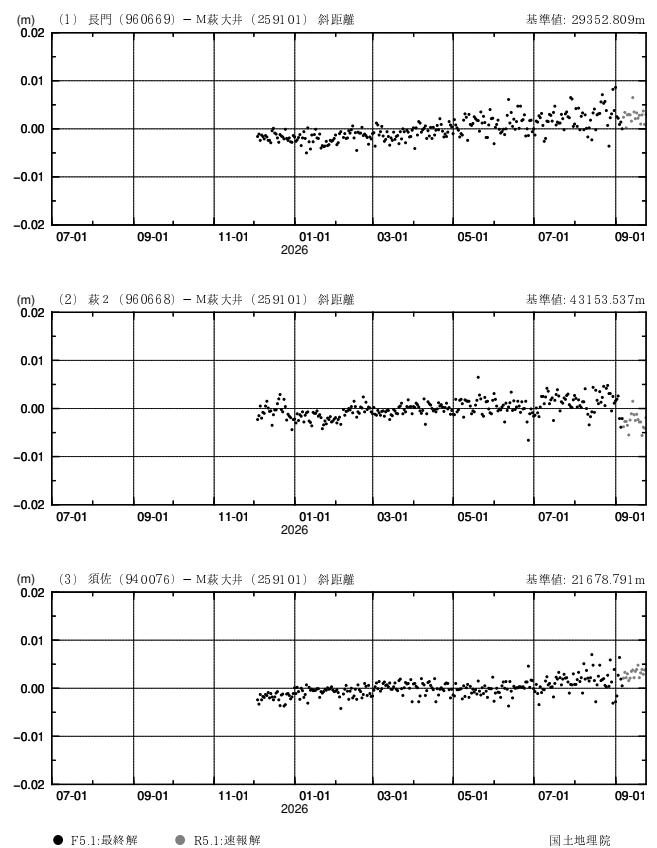
基線変化グラフ

期間:2016-01-01 - 2026-09-23 JST



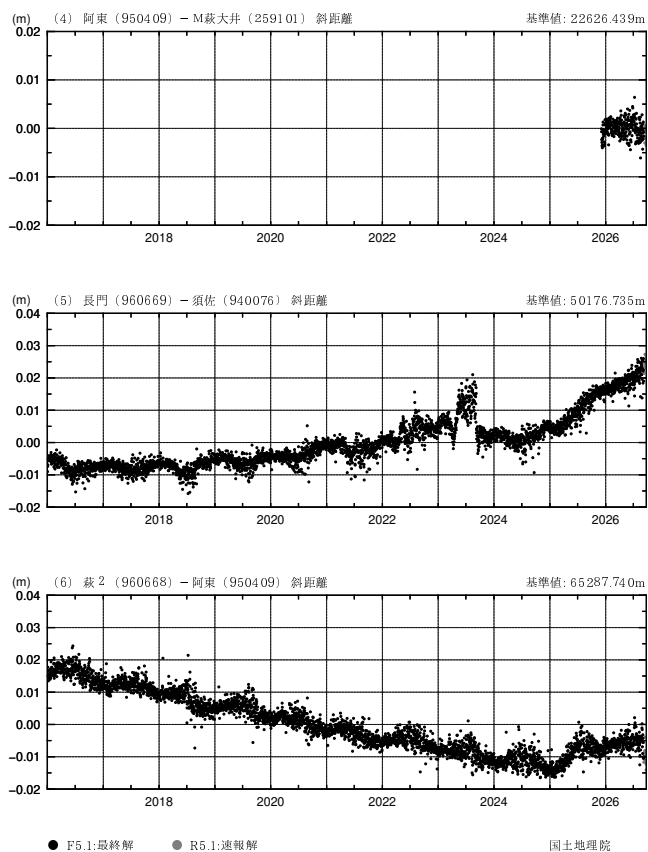
基線変化グラフ

期間:2025-07-01 - 2026-09-23 JST



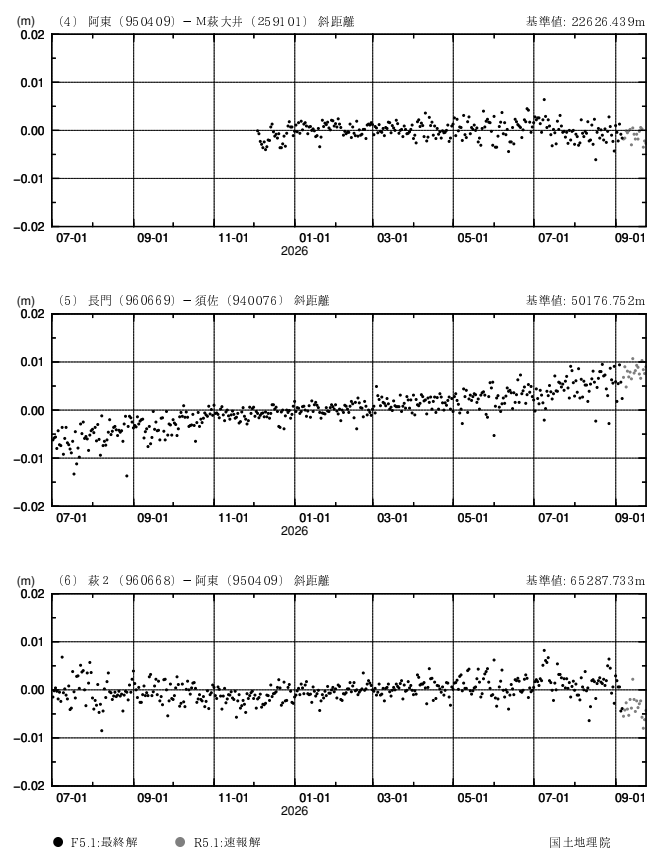
基線変化グラフ

期間:2016-01-01 - 2026-09-23 JST



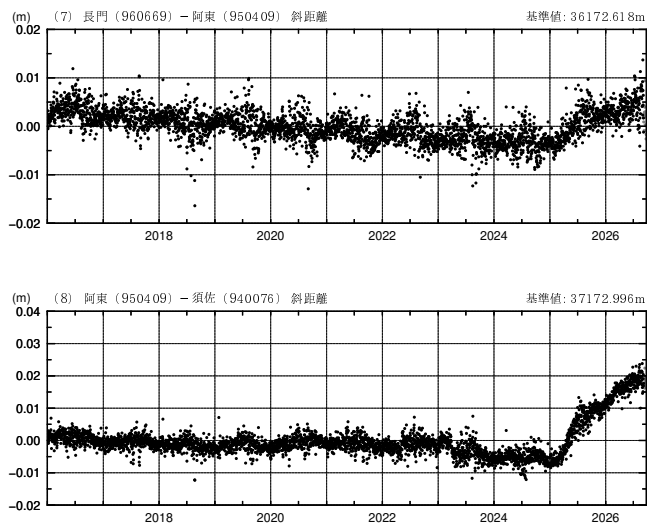
基線変化グラフ

期間:2025-07-01 - 2026-09-23 JST



基線変化グラフ

期間:2016-01-01 - 2026-09-23 JST

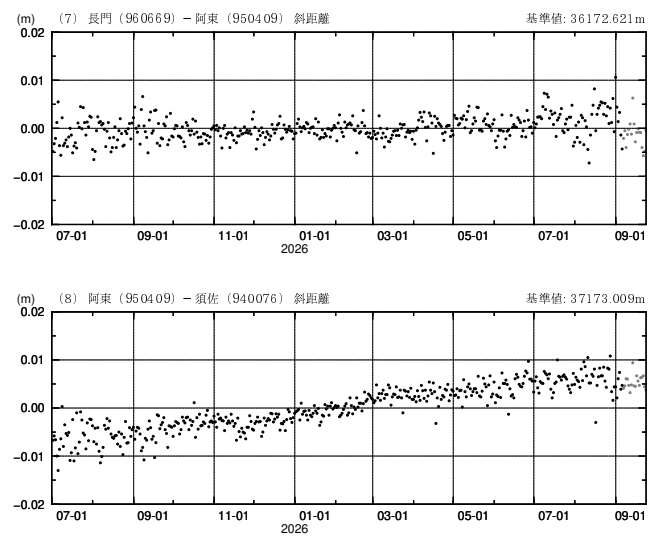


● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院

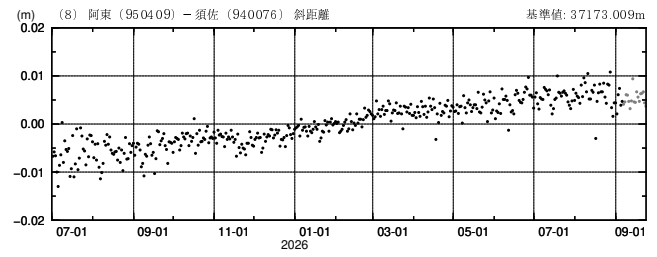
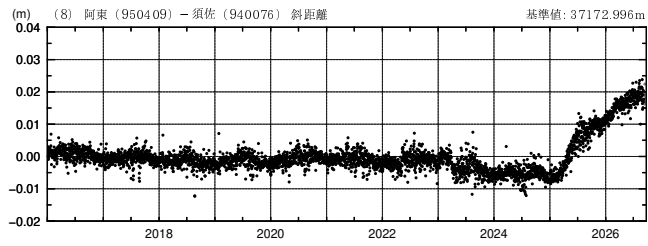
基線変化グラフ

期間:2025-07-01 - 2026-09-23 JST



● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院



基線変化グラフ

期間:1996-01-01 - 2026-09-23 JST



● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院

比高変化グラフ

期間:1996-01-01 - 2026-09-23 JST

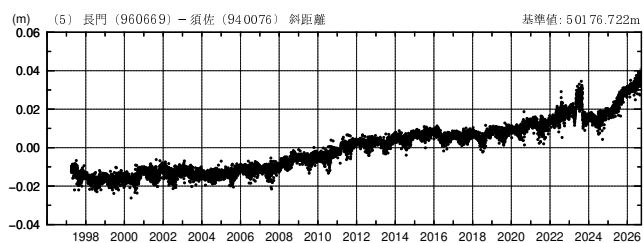


● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院

基線変化グラフ

期間:1996-01-01 - 2026-09-23 JST

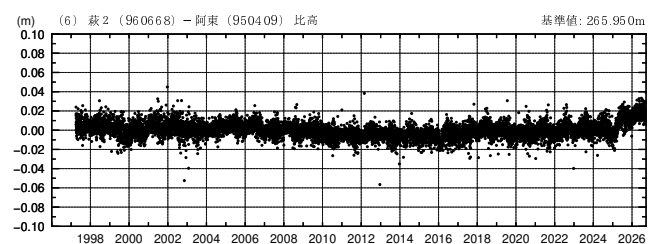
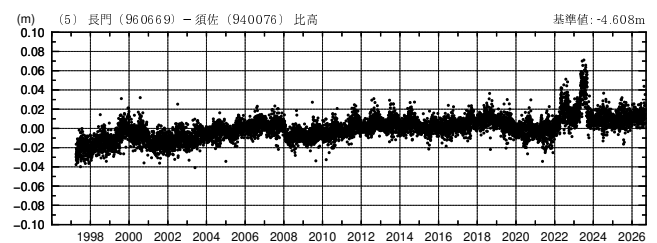


● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院

比高変化グラフ

期間:1996-01-01 - 2026-09-23 JST

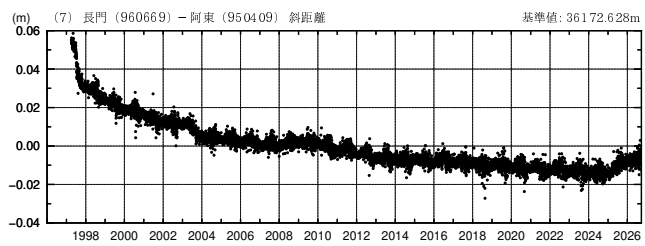


● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院

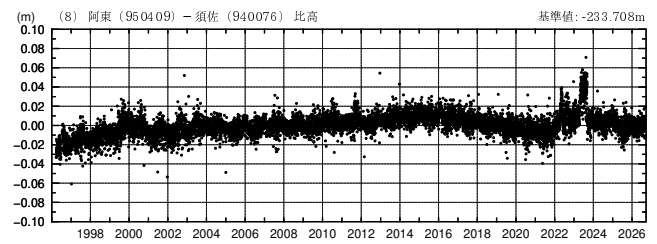
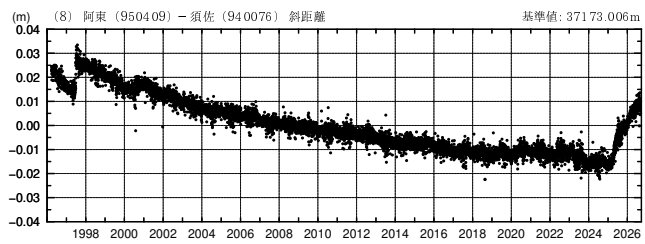
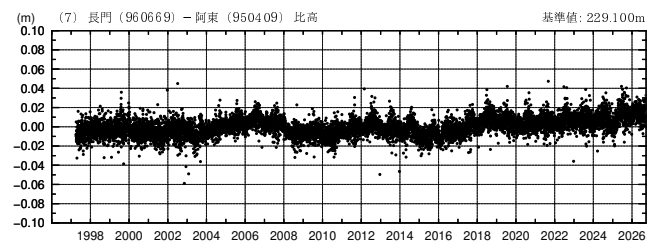
基線変化グラフ

期間:1996-01-01 - 2026-09-23 JST



比高変化グラフ

期間:1996-01-01 - 2026-09-23 JST



● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

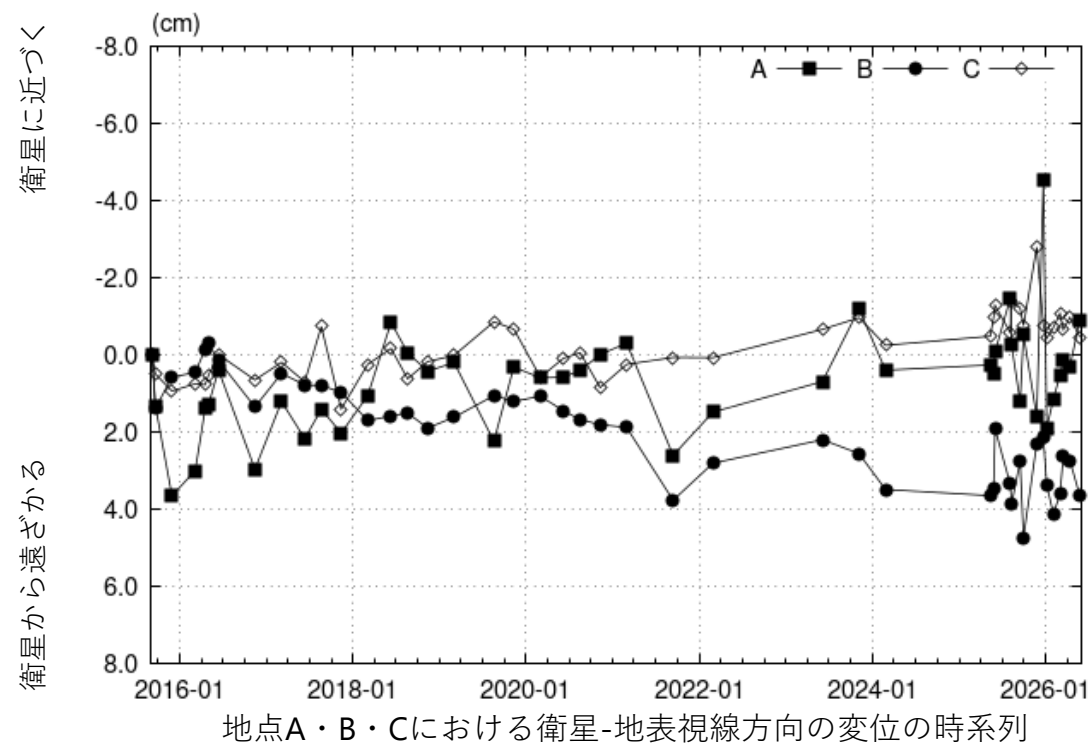
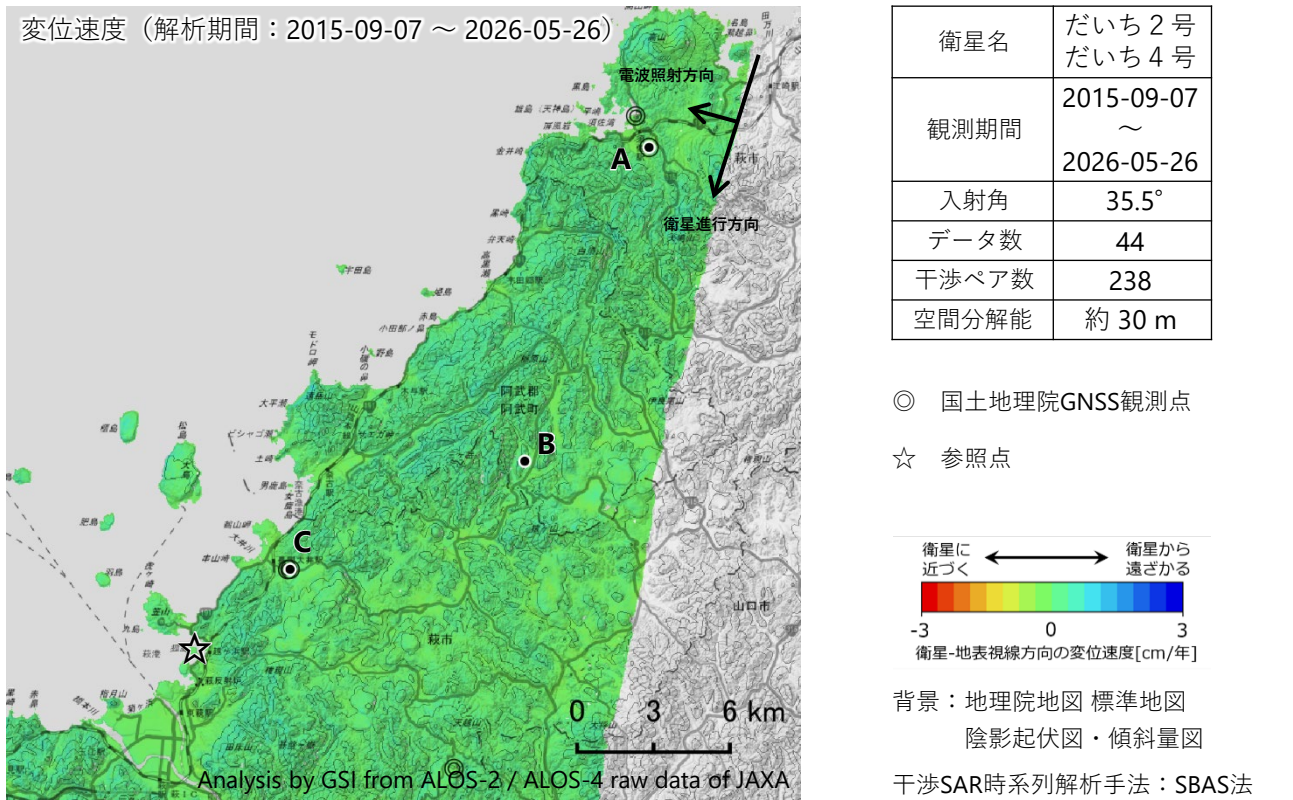
国土地理院

● F5.1:最終解 ● R5.1:速報解

国土地理院

阿武火山群の干渉SAR時系列解析結果（だいち2号／4号 南行）

ノイズレベルを超える変動は見られません。



気象庁資料に関する補足事項

1. データ利用について

- ・ 資料は気象庁のほか、以下の機関のデータも利用して作成している。

国立研究開発法人防災科学技術研究所

2. 広域地震観測網による震源の利用について

- ・ 本資料では、各火山の近傍に設置された観測点による震源とは別に、気象庁、大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所等が運用する全国規模の地震観測網のデータを一元的に処理して決定した震源も掲載している。
 - － 2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知能力が向上している。
 - － 2016 年 4 月 1 日以降の震源では、M の小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。
 - － 2020 年 9 月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した手法で求めている。
 - － 速度構造や算出方法については地震月報（カタログ編）[気象庁ホームページ：<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/bulletin/index.html>]を参照。

3. 地図の作成について

- ・ 資料内の地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線・地図画像)』、『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。